

バイオマスプロジェクトチームだより No.2



平成 16 年 12 月 17 日 (金)

バイオマスプロジェクトチーム

(環境生活部資源循環推進課)

1. 事業の進捗状況

○ 木質バイオマス利活用実用化促進事業



製材残材などの炭化試験施設（東金市山田）の基礎工事に 11 月 9 日（火）着工、12 月 15 日（水）に炭化炉の据え付けを完了した。12 月中は施設の調整を行い、年明けの 1 月中旬から施設の本稼動を予定している。今後、月産 30 m³程度の木炭を生産し、炭化データの収集等を進める予定。

○ 山田町での農林水産バイオリサイクル研究

バイオマス多段階利用プラント群建設の起工式が 11 月 25 日（木）行われた。

16 年度中にメタン発酵プラント、メタン燃料化設備、メタン発酵消化液再資源化設備等の各種プラントを完成させる予定。



プラント群建設予定地

○ バイオマスプラスチック導入実証支援事業

本年度より開始した「とうもろこし」からできたバイオマスプラスチックの普及啓発を行う事業で、県では 2ヶ所で実施している。

「そうさバイオマスプラスチック栽培組合」（八日市場市・野栄町）ではバイオマスプラスチックの生分解性を利用した環境に優しいポットを使った植木生産に取り組んでいる。

（バイオマスプラスチックのポット栽培を大槻副知事室、環境生活部長室に展示。）



NPO 法人「バイオマス産業社会ネットワーク」はバイオマスプラスチックでできた卵パックを利用した一般消費者への普及啓発事業を 12 月より開始した。本パックを使った卵はイオン関東各店舗にて 12 月中旬より販売されている。

2. 国・大学等との連携

○ 文部科学省リーディングプロジェクト関連

文部科学省リーディングプロジェクトの一環として NTT 東日本が東大と共同で実施している「地域のバイオマス利活用に向けた GIS（地理情報システム）の利活用」について情報交換を行った。（11 月 22 日）

○ (独)産業技術総合研究所が実施する「地域 LCA（ライフサイクルアセスメント）の検討」

NEDO の試験研究の一環として、同研究所と共に県内畜産農家を視察した。

○ シンポジウムの開催

東京大学・千葉県の共催で、12月8日(水)にバイオマスシンポジウム2004を開催した。(県庁中庁舎10階大会議室)

企業・大学・自治体関係者等、約150人が参加。

バイオマスプロジェクトチームからも、県内のバイオマスプロジェクトの動きについて情報提供を行った。

シンポジウムの内容は以下のとおり。

①「バイオマスリファイナリー構築に向けて」(財)地球環境産業技術研究機構

日本のバイオマス研究のリーダーである湯川英明博士から、微生物を利用した高生産性の化学品製造技術についての基調講演。

②「ブラックゴールド」(ハワイ大学自然エネルギー研究所)

招待講演者アンタル教授がハワイ大で研究しているブラックゴールドすなわち炭の「有効利用と急速炭化技術」についての講演。

③「バイオマス資源物流支援システムの開発」(東京大学生産技術研究所)

文部科学省のリーディングプロジェクトを担当している野城^{やしろ}智也教授が、広く薄く存在するバイオマスを合理的に利用するためのデータベースの構築、シミュレーションモデルの開発、GPS, ICチップ利用技術の紹介。

④「持続可能なバイオマス利用」(東京大学寄付研究ユニット)

望月和博客員助教授が、山田町での農林水産バイオリサイクル研究に関する要素技術、米を原料とする化学品製造体系について紹介。

⑤「有機資源の飼料化・堆肥化における集団微生物の役割」(同上)

崔宗均客員助教授が、バイオマスのたい肥化や飼料化における集団微生物の優位性について紹介。

3. 普及啓発活動・その他

○ 農林水産環境展(EFAFF2004)に出展

11月24日(水)から幕張メッセにて行われた農林水産環境展に千葉県農林水産部のブースに出展。来場者に対しバイオマスの普及啓発に取り組んだ。

農林水産環境展(EFAFF2004)



○ ふるさと房総定期市に出展

12月5日(日)カレスト幕張で行われた「ふるさと房総定期市」に出展。バイオマスプラスチック製の卵パック、植木鉢を展示し、普及啓発活動を行った。

ふるさと房総定期市



○ 企業相談・視察など

・木質バイオマス発電等について企業からの相談を受けた。